

ふれあい放水路

お知らせ

放水路と神戸川合流部の工事が進んでいます。

新宮川整備外工事を進めています。

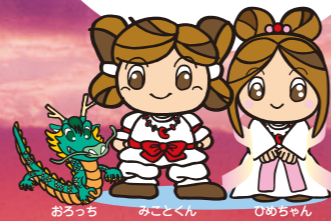
特集

歴史から防災を学ぶ
天井川決壊への対策～伝統工法 出雲結

2012 平成24年
ふれあい放水路

vol.197

Izumo Office of River
Chugoku Regional
Development Bureau



新年のご挨拶

ご挨拶を申し上げます前にこのたびの東日本大震災により、不幸にしてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、現在も被災地の復旧・復興に取り組まれている皆様に敬意を表する次第でございます。

さて、放水路事業におきましては、昨年は開削部の河床保護工事のコンクリート打設に着手し、神戸川と放水路が合流する導流堤の整備も進み堤防の形が見えてまいりました。また分流量も周辺設備はまだ残っておりますが、堰本体の打設、さらにはゲートの据付が完了するなど、事業を着実に進めることができました。

本年は、引き続き開削部の河床保護の整備を進めるとともに、放水路事業完成へ向け残りの堤防や護岸の整備を行うとともに、供用へ向けた道路整備や橋梁工事の進捗も図って参りたいと思っております。本年も、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

国土交通省出雲河川事務所

平山 大輔

朝日と分流堰

早朝の澄んだ空気の中で、昇る朝日に照らされる放水路分流堰。着々と堰本体の工事が進んでいます。(放水路より東をのぞむ)

お知らせ 新宮川整備外工事を進めています。

■新宮川整備外工事

新宮川整備工事では、新宮川放水路堤防の嵩上げ及びそれに伴う、道路の嵩上げ、橋梁架け替え、十間川改修を実施します。本工事は昨年9月より工事に着手しており、現在は下図にあります4号樋門及び山崎橋の架け替え、迂回路の設置を行っているところです。本工事の施工に伴い一部道路の通行止めが必要となります。(1月より下図の迂回路をご利用下さい) 周辺の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力の程よろしく申し上げます。



新宮川で進む工事



現場代理人より

(株)都間土建 芝原 忠

現場近くには保育園があり、12時半から15時までの間は、園児の皆さんのお昼寝の邪魔にならないよう、その時間帯は大きな音が出る工事をしないように工程を調整しながら行っています。工期は平成24年8月を予定しています。今年度は樋門工事と山崎橋の架け替え工事を行い、来年度は護岸工事、取り付け道路の工事を行う予定です。



防護壁を設置しての工事

工事の発注情報

下流	●斐伊川放水路下流部工事用道路整備外工事	H23.12.7～H24.3.30 岩成工業(株)	上流	●斐伊川放水路上流部工事用道路整備外工事	H23.12.8～H24.3.30 大和建設(株)
上流	●斐伊川放水路神戸川上流部用地整備外工事	H23.11.8～H24.3.30 大和建設(株)	開削部	●斐伊川放水路菅沢地区用地整備外工事	H23.12.10～H24.3.30 (株)岩崎建設



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5-1 tel (0853) 21-1850 / fax (0853) 22-7829

E-mail : izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

本紙に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。 お問い合わせ先 放水路推進室 ふれあい放水路担当 (197号:平成24年1月発行)

お知らせ

斐伊川放水路合流部

放水路と神戸川合流部の工事が進んでいます。

放水路からの水をスムーズに流すための導流堤工事を行っています

昨年度までの工事により、合流部付近の神戸川の護岸の導流堤整備と拡幅を目的として、護岸工事と掘削工事が進みました。現在は導流堤の築堤工事と、掘削工事が進行中です。

平成23年度も引き続き工事を行い、平成24年度には導流堤の形が見えてくる予定です。



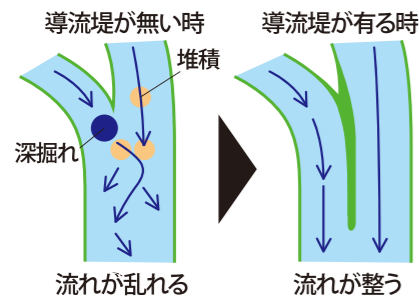
着工前の写真
平成22年5月撮影
H22年度の工事により黄色部の掘削・護岸・導流堤築堤工事を行いました



●塩冶地区堤防整備外工事

ここは放水路と神戸川がちょうど合流する位置にあたり、その流れを整える導流堤の工事が行われています。

導流堤とは？



現場代理人に伺いました。
地域の皆様と交流しました。

塩冶地区堤防整備外工事は斐伊川放水路合流部の馬木新大橋より下流側750m及び神戸川左岸の護岸工事です。平成22年3月から始まり、地域の皆様とのふれ合いを大切に、この夏は馬木地区の朝山小学校に通う皆さんを現場（右岸側）に招き根固めに使うブロックに絵を描いてもらいました。大きなコンクリートのキャンパスに「魚」「手形」や「思い」の風景などカラフルな絵が20以上もできあがり、晴天の下でヤマメのつかみ取りをおこなったり、塩焼にして食べてもらいました。

工事については、「出水期（6/20～10/20）」は神戸川の低水護岸は工事ができないため、神戸川拡幅部の高水護岸を施工し、次いで開削部の法面保護をおこなっています。災害復旧に、今後は神戸川拡幅部の低水護岸に根固めブロックを敷設する工事をおこなっています。

現場は工事用に盛土して水を抜いてから工事をおこなうのですが、浸水によって多量の水や土砂が流れ、ポンプを何台も使い、土留めを繰り返して約10日間かかりました。

低水護岸部水替え状況

根固めブロックに絵を描く様子

(株)フクダ 代理人 はたはらかずとも 畑原和朋



●半分地区掘削外工事

ここは放水路の河床保護工によってコンクリートで覆われている河床から本来の岩石質の河床へ切り替わる箇所になります。そのため、深掘れを防止するためにカゴマットを行っています。



現場周辺への防音・振動対策として、防音柵の設置と騒音・振動計による数値表示を行っています。

合流部平面図

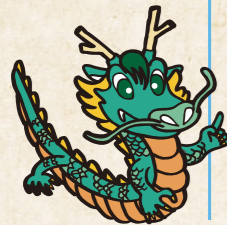
コンクリート河床保護区間
放水路ふれあいセンター
至飯南町
半分大橋
カゴマット施工区間
馬木新大橋
今回の施工箇所
184
至出雲市内
放水路
神戸川
導流堤

カゴマット

鉄線を金網状にしてつくられたカゴに、5～15cmの石（硬度玄武岩）を敷き詰めたものです。今回の施工区間では、約1,500㎡の範囲にこのカゴマットを施工します。

歴史から防災を学ぶ

防災意識を高めよう



天井川決壊への対策～伝統工法出雲結

昭和18年9月19日から21日にかけて、台風26号は斐伊川流域に甚大な被害をおよぼし、特に上津地区では約620mの堤防が決壊し、民家と耕地に大きな被害を受けました。この被害の応急復旧工事の際に用いられた工法が「出雲結」です。

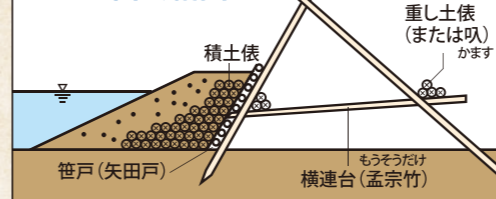
典型的な天井川である斐伊川は、これまでも洪水による決壊がおこれば、洪水流のほとんどが堤内地に流入し、被害が大きくなること多くありました。そのため、破堤した場合の治水手段として伝統的に確立された手段が「出雲結」です。

9月23日から始まった復旧工事では作業員のべ14000人によって準備された土俵1万俵、縄2000貫、杭木2000本を用いて約1か月後の10月20日に、出雲結により3000人を動員して急止水に成功したといわれています。災害復旧に、先人の知恵ともいえる伝統工法「出雲結」の効果が発揮されたとはいえ、数字を見てもひとたび被害を受ければ復旧には大変な労力と時間が必要であったことが伝わります。現在でも毎年の斐伊川水防演習の際に水防団が出雲結実施訓練を行っています。



※昭和18年堤防復旧に活躍した出雲結

伝統工法 出雲結図



「出雲結」とは居相撲(座り相撲)結ともいわれ、相撲の祖、野見宿禰が考案したものと伝えられ、支柱の交差するところに土俵をつむところに特徴があります。水流を利用して川底の砂を移動させて仮堤防を築くという、砂河川と天井川という斐伊川の二つの特色を活かした伝統工法です。

深掘れ防止の対策

